

イギリス便り (三)

四 Cambridge.

Cambridge は地理學部は Oxford の様な獨立した建物にならぬで、Sedgwick geological Museum 内の教室が之に充てられてゐるが、Reader の Philip Lake 教授を其御宅に訪ふて、懇切な案内を受けた。Museum は三階迄の廣大な建物で、三階は Museum of Petrology 並に其の Laboratory で、二階は Geology の Museum になつて居る。Marr 教授に面會、案内を得て、縦覽する。石器時代の遺物から順次に陳列されて居る。Sedgwick Museum と云ふだけ、Adam Sedgwick の肖像なり、寫真なりが諸方に眼を引く。教授は Bos primigenius, Burwell Fen の頭骨中に石斧のさへつて居る標本を指し、珍らしい標本であると説明され、Hippopotamus の大きな骨や、Homo Diluvialis の珍らしい化石、Plesiosaurs, micropterus, Lias-whitely の大きな化石並に Cambridge 地方の地層たる Green Sand 中より發見する動物化石等に就ては特に説明を加へられた。

階下は地理學部で、廣大な室が三室在る。玄關に次ぐ室は陳列室で、其左側の一部を劃して二室に分け、一室 (Grand floor

寺田貞次

Room 6) は P. Lake 教授の室で、一方は直に街路に面し、三方の壁には書棚、地圖箱を裝置し、中央に生徒用小机數脚を並べ、海流模型一個を備へて居る、次の室は地圖室で、周圍に書棚、地圖箱を置き、中央に大卓十九置き、測地用具を備へ、カタログ箱、地球儀などを備へて居る、書棚では J. W. Clark Collection 並に Sir John Franklin の蒐集にかゝる旅行記類を藏し、Universal geography, Dictionnaire géographique de la Suisse, Encyclopaedia Britannica を初め、地學雜誌類を備へて居る。古地圖の蒐集も多く、四壁にかけられて居た、陳列室は入口に近き部分には岩石の利用標本を蒐集し、古代より現今に至る迄を順次にならべて居る、例へば古くから用ゐられた石臼とか云ふ風のもので、岩質により利用法の異て居る處など面白く眺めた、室の左側、即研究室との境界に當る壁は一帯地質標本棚になり、建築石材標本を網羅して居る、(Specimens of Colonial & foreign Building Stones) 次の室も廣大で、講義室兼標本陳列室をなし、其一隅(左側)に教壇を設け、生徒用机を並べて居る、他は室の右側、左側共に陳列品を以て充たし、周壁には地圖をかけて居る、Monte Vesuvio の模型、Mt. Vesuvius の地質的模型、伊太利模型、天體模型、大形地球儀、各種

岩石標本、Coastal Plain and Mountain 模型、等數多い中に
も我が東京大學から寄贈した地震に關する模型は興味を以て眺
めた。(Model, showing the motion of an Earth-Particle,
Constructed Prof. S. Sekiya, 1887 年一月十五日) 周壁にか
けてある、ウオーム・ボム爆發の Bonduis glacier, ナイヤガ
ラ瀑布の寫眞も眼を引いた、其次の室は階段室で、其左側の小
室は Map-room なし、中央に卓子を置き、地球儀を備へ、兩
壁は一帶棚を裝置し、各種掛圖を保存して居り、棚の外側は日
光を防ぐ爲め布を垂して居る、其の次の室は廣大な室で講堂で
ある、一段を低めて生徒用机が並べてある、數百人を優に收容
し得る廣さである、黒板は大きく、地圖掛、幻燈の設備も整て
居り、大きな時計も注意を引いた。

教授は、案内して下した Lake 氏が一九一九年來 Reader と、
R. W. Stanners, E. A. Benians, Frank Debenham, A. C.
Haddon, J. A. Steers, J. M. Wardle, B. L. Manning 諸氏
が居る Lake 氏は Physical Geography 並に Geomorphology
を Stanners 氏に Historical and Political geography, 並に
Economic geography を Debenham 氏に Topographical
Survey 及び Cartography を Haddon 氏に、人類地理を
Manning 氏に歴史地理を Wardle 氏に海洋學を S. Oldham
氏は地的發見の歴史を Quiggin 氏に Anthropogeography を
Gardiner 氏は氣候を講じて居る。

要するに、ケンブリッヂの地學教室は云はゞ陳列室が主たる
もので、研究室としての設備は殆どないと申してもよい程であ

イギリス便り

る、然し大學の圖書館は廣大なもので圖書の他、古い時代から
の地圖の蒐集が完備し、館内には地圖の室が別に設備され、室の
中央に長大な地圖箱二個を並べ、蒐集の地圖を整理してあつた。

五、Manchester.

Manchester 大學では地學部は、大學本館 Owen College か
ら少し隔たふ部の立派な建物の傍に在る、地質學教室の一部
を利用したもので、小さい極く御粗末な三階造の建物である。
暗黒な狭い階段を登ると一寸した板間に出る、左側の壁に抽出
付の地圖棚を備へ、掛圖を保存して居る、ケンブリッヂ等と同
様棚には布を垂れて日光を防で居る。右側に一室在る教室で相
當の廣さを有して居るが、天井が低くて鬱陶しい、正面の壁に
黒板をかけ、入口の右側の壁には抽出付の地圖箱を備へ、大地
球儀を安置して居た、室内には製圖臺八脚を二列に並べてあ
り、訪問した時には婦人の學生が二三名地圖の實習をやつて
居た、三階は二室に分れ、最初の室は三間位の小さい室で、當
學部の Reader W. H. Barker (B. Sc. London) 氏の室であ
る、折よく面會する事が出来た、極く懇切に教室を案内してく
られ、氏の研究に成る出版物などを惠與された、瓦斯ストー
ブを後にして机を据え、前面に書棚を置き、左側に抽出付地圖
箱を備えて居た、カタログ箱も整理してあつた、次の室は少し
廣い室で、學生用の圖書室である、書棚には豊富とは云へない
けれども參考書を備え、机が二脚置かれ、地球儀なども備えて
ある、四階も三階と同様に二室に別れて居る、屋根裏であるか

ら一層、天井も低く陰氣である。最初の室は小室で教授室である。Assistant の Irene J. Cummins (B. A. London) 女史の室になつて居る。倫敦大學の出身で Lyde 教授の門弟であるので、經濟地學者として Lyde 教授を稱揚して居た。其の奥の室は製圖室で丁度屋根裏に當て居るので、屋根を利用して硝子張になし、光線をとるに適せしめて居る。其の下に製圖用の卓子と、硝子板を裝置した Tracing table とを各一脚置き、周壁には戸棚形の地圖箱、抽出付の製圖箱、並に丈の高い掛圖入を備えて居る。教室の様子はちやうどこんなもので、小規模ではあり、建物は質粗ではあるけれども一通の設備は出來て居る様に思はれ、講義の如やう (1) Physical geology and geography (2) the Elements of Meteorology and Hydrography (3) Outline of general and regional geography (4) Geography of trade and commerce (5) Geography of special regions (6) Regional geography of the land of the North Atlantic Basin with special reference to the British Isles (7) Special regions (8) world history of geographical discovery (9) Cartography (10) the history of Cartography. に別々各々實驗を課せられて居る。

六 Liverpool.

Liverpool 大學では地理學は全權 Faculty of Arts に設置されて居り、School of Geography と稱して大學本館の南方約三町の處、Abercromby Square の南側に位して居り、考古學

教室と並んで普通住宅式の建物の一部が之に充てられてあります。教授室は Reader の Roxby 教授並に Kinvis 教授に面會する。丁度授業の始まる時であつたから、助手の W. Smith 氏に命じて案内して下した。四階建て、1st floor は入口の左側が二室になり、入口に近い方の室は四間に五間位の室で、圖書室である。中央に閱覽用の机數脚を置き、周壁に書棚を備へ、餘り數に於ては豊富でないけれども、地學研究上普通な書物を分類して並べてある。The round table (London, Macmillan & Co, Longman's Gazetteer of the world (by G. G. Chisholm), Cambridge Country geography (各州別約五十冊) 等は注意を引いた。2nd floor も同様二室に別れ、街路に面した方は、丁度圖書室と芝蘭との上部に當り、大講堂になつて居る。一方の側に黒板をかけ、幻燈器を備へ、小形一人用の机を多數に並び、周壁には地學上參考となる世界各地の風景寫眞を掲げて裝飾として居る。埃及の砂漠、南洋の熱帶氣分、東亞の風物支那等は夫である。教室として別に設備完全と云ふ程ではないけれども、室が新しいだけにすべからぬ氣持のよい教室と思つた。其の後の室は稍小さい室で Map-room である。此の室は更に三室に區劃され、最初の室には中央に一脚の机を置き、傍に抽出付の地圖箱を備えて居る。Geography of the world Agricultural (by V. C. Finch and O. E. Baker, 1917) Times 6 地圖 (Bartholomews, 1920) Physical Atlas of Meteorology Bartholomews 等眼にいらした。壁には Oxford Map 及英佛の地圖並に Philip 製の中華全圖(最近刊)等がかげられて居た。次の

小室に地圖貯藏室で、左右の兩側に地圖箱を準備し、左の箱は棚形に造り、國別にし、右側の箱は抽出付とし、英國内地方別とし、又各國につ出版する地圖に關する Report 類をも蒐集して居る。例へば Majestys Stationery Office から毎年出版する Diplomatic and Consular report (Japan) となつて Ordnance survey (English & Wales) two miles one inch (Sifton, Prad & Co, 67 St. James's Str, London, S. W.) 等の類である。此の蒐集は面倒でも重要な事と思つた。最奥の室は製圖室で、中央に三脚の製圖臺を置き、側壁には爐と標本とな備えて居る。標本は別にたいしたものでもなく、小さい Reiter 標本や、歴史的寫眞、英國内製布吊類を藏して居るに過ぎなかつた。3rd floor も同様に二室で、街路側の室は教授の研究室で、學部の Reader Prof. P. M. Roxby, B. A. 氏の室で、周壁にも書棚を置き豊富に參考書を藏し、中央に大きな机を控えて居る。其隣は比較的小さい室で普通の講義室をなし其前の廊下の突を當りに向つて小さい室が在り、夫が Lecturer の R. H. Kinzig 氏の室になつて居た。Reader 室の前の階段を登る、屋根裏に又一室ある、物置と Cartography room になつて居る、屋根に硝子窓を裝置して光線を導き、其下に製圖板を備えて居る。總じて地理の教室は階上が多い、惡く云へば屋根裏が多い様である。屋根裏など中すと、何だか不景氣な様ではあるが、一體に歐洲の建物は陰氣で暗黒であるから、地理の様な光線の利用を必要とするものには自然屋根裏を用と云ふ事になるのである。M. K. Ellerton と云ふ老製圖家が仕事をして居た。此の地方

の人口密度圖の詳細なのを製圖して居る様で、傍の地圖箱中に保存して居る製圖を見せてもらつたが、人文地理學研究上の好資料たる各種の圖が製せられて居た。

此處では地學教室に關連して、地質教室並に海洋學教室をも訪ねて見た。Geology の教室は本館の西側に在り、Applied Electricity 及び Zoology 教室の階上が之に充てられて居り、3rd floor は化石學教室で、石器時代の遺物から蒐集されてあり、Photomicrographic, Cutting, Rock section 室、暗室等が備つて居り、階下即ち 2nd floor は講義室並に準備室で、講義室には英本島の地質圖をかけ、幻燈機を安置してあつた。傍に教授控室が在り、Sand の標本が多く蒐集されて居り、地圖には海外の地圖を藏し、殊に米國の地質圖が多數を占め、居た。其又傍に小さい室が在り、分析室で、此等の室より一段低く圖書室が在る、細長い室で Geological Survey of India, U. States, Canada, Germany 等各國のを蒐集し、Palaeontographical Society の出版物、並に各國出版の地質關係 Pamphlet を蒐集し、抽出を多數に備え、部類を別けて保存して居た。教室に至る階段及び廊下には巨大なる標本で、地質に關する大家の寫眞を掲げて居る、Sir Arch. Geikie, E. Suess, A. H. Green, Alfred W. Wallace, A. G. Seely, C. Darwin, Sir Cha. Lyell 等が眼につき、教室の入口に立て居る長き文餘の動物足跡石も先づ注意を引く一つである。

Slab showing cheirotheroid & Rhynchosaurid Footprints, Shoreton, Cheshire;—No bones belonging to Cheirotherium

are known, but remains of Phynchosaurus have been found, and a drawing of the skeletal parts can be seen in the Museum Case.

此の教室の北に隣りて Oceanography の教室が在る。Prof. Dr. J. Johnston 氏が其主任。研究室は Museum を兼ねて居る。川津博士の陳列品がある。Irish Sea の萬集品を主として Black Etoile の各大陸地質時代の變遷を示す地球儀、例へば Land and Sea in the Permian Period (Hang's reconstruction), Devonian Period, Early Tertiary の類等地理學に關する標本も少くはあつた。要するにリッダーマン大學に於ける地理學は P. M. Roxby 教授が主任となつて R. H. Knivig 氏並に Lily Winchester 氏等 Lecturer としつゝ之が研究に従事し、地圖學には Cartographer の M. K. Ellerton 氏が居り、授業は之を數部に別つゝ即ち

Course A.—General Principles of Geography with special reference to Europe.

“ B.—Principles of Racial, Economic and Political Geography.

“ C.—Historical Geography.

“ D.—Economics and Geography of Transport.

等は本學期の方類で、此他に Geography of South America の研究もあり、地圖の方は特に Map class として研究せられて居る。其要目に依ると、土地が主要な商工業地だけあつて、Oxford の Cambridge 等と異つて經濟地理、商業地理方面の色彩が濃く感じられる。

學團員名簿正誤

第四卷第六號(大正十四年十二月號)所載の學團員姓名住所の誤補訂正左の如し

京都市上京區吉田二本松町五六	石橋五郎	頁數
京都市上京區下鴨松原町四七	中村新太郎	一
京都市下京區平安中學校	圓越常吉	一
京都市下京區東山通松原 上野明作所	小出亮	一
大阪毎日新聞社編纂課	石井潔	一
京都帝國大學農學部	黒正麿	二
族順工科大學	井上禧之助	二
神奈川縣平塚町	山成不二麿	三
東京市日比谷公園角 三井礦山會社内	佐川榮次郎	三
高知縣立城東中學校	江刺庄藏	四
京都市上京區田中里ノ内町十一 小野方	畠中興作	七
大阪市此花區四貫島宮井町二	岡橋松之助	八